

■ 祭司長たちとパリサイ人たち

祭司長たちのグループは、ほとんどがサドカイ人です。サドカイ人という呼び名は、ダビデとソロモン時代の祭司長の名前、ツアドクから由来しました。サドカイ人はユダヤの議会でも多数の議席を占めています。祭司長たちは、神殿制度や社会の習わしをそのまま維持したい保守派のグループです。

パリサイ人たちは、不正な人々からの分離を目指す人々でした。パリサイ人という言葉は、「分離した者」という意味で、ユダヤ教で最も大きな教派でした。政治的な力はないけれど、敬虔な宗教心の故に尊敬されていました。民の中でも大きな影響力をもっていました。社会的には神殿制度を改革しようとする改革派のグループです。

■ メッセージのポイント

イエスを捕えようとする人々の話とイエスの教えから学びたいと思います。

(1) イエスを捕えようとする人たち

もともと祭司長たちとパリサイ人たちは反対の立場にいました。しかし、すべての不義を知っておられるイエス様の前で二つのグループは意気投合し、イエス様を捕えようとなりました。

(2) イエスを捕えようとする理由

祭司長たちとパリサイ人たちは、イエス様が神殿や律法の権威に挑戦する、偽預言者だと思いました。イエス様が、神殿とユダヤ教の滅びを偽って預言し、群衆を惑わしていると思ったのです。

(3) イエスを捕えなかった人たち

神殿の下役たちは「イエスを捕えろ」という指示を拒否し、自分たちが正しいと思った事を行いました。これまで、イエス様のように話した人はいなかったからです。

(4) イエス様の教え - 生ける水の川